

## 週日の説教

金 大烈 神父 2010年10月19日(火)

《一番油断してはいけないもの - 罪を犯さないように - 》

今日の福音(ルカ 12・35 38)を黙想して思い浮かんだのは、『油断』という言葉です。『油断』という言葉は、日本語だけの言葉です。中国にも韓国にもありません。漢字の『油(ゆ)』は「あぶら」、『断(だん)』は「とぎれる」の意味ですね。つまり『油断』は、「油がとぎれること」です。「油断をしない」というのは、「油がとぎれないようにいつも注意をしている」ことですね。たぶんこの言葉は、日本で油を灯火ともしびに使うようになってからできた言葉だと思います。油を使わなかった時代に、この言葉が使われるはずはありませんね。詳しいことは、皆様があとで調べてみてください。私は漢字を見て、そのように思いました。

さあ、皆様も子どものときから何度も「油断してはいけない。」と言われてきましたね。では、今まで一番油断してはいけないと思ったことは何でしょうか。親から聞いた話、逆に親の立場で子どもに注意した中で「一番油断してはいけない」と思うことは何ですか。「油断してはいけないこと」は、いろいろあると思います。たとえば時間を無駄にしないために、お金を無駄にしないために、油断してはいけませんね。「油断しない」というのは、「注意を怠らない」ということです。油断しないためには、周囲のことに注意していなければなりません。いつ危害を受けるか分からないから、いつも自分を守る備えをしていなければなりません。いろいろな災害、病気、お金のこと、いろいろな注意することがありますよね。それについて、私たちは、特に日本人の方は、無意識のうちに油断しない心が身についていると思います。ですから、「日本人は他の国の人々より物を大事にする心、節約する心が強い」と言われています。いつも将来のことを考えて、将来に備えています。「今全部使ってしまったら将来困る」ということをよく教えられていますね。これは悪い意味で話しているわけではありません。

では、今まで一番油断しないように気をつけてきたことは何ですか。いろいろあると思いますが、一番気をつけなければならないことは、今日の福音に書かれています。それは、「いつイエス様が帰って来て門を叩いても、待っている姿で迎えらるるよう」にすることです。

結論を申し上げます。私たちが本当に油断してはいけないことは罪に対してです。油断しないようにしていても仕方なく犯してしまうのが罪です。ですので、何よりも罪に対しては、「油断しない」という心が必要だと思います。仕方なく犯した罪でも、その結果は痛みです。つらさです。もしとても大きな利益になるとしても、それを手に入れることが罪になるのならば、手に入れなくても罪を犯さないほうが幸いである、と今日の福音ははっきり言っています。この福音は、そういう意味でしょう。

私たちはいろいろな誘惑に負けます。誘惑というのは、簡単に言えば『罪』です。『誘惑』=(イコール)『罪』です。「その罪に負けないために油断をしない」という心が私たちの中にできていれば、何も持っていなくても「あの人は幸いな人だ。」「あの人はいい人だ。」と言われるでしょう。しかし

実際は、「罪に油断してはいけない」という心を持っていても、罪を犯してしまうのが私たち人間です。それでも、「罪を犯すことを減らそう」、「できるだけ罪を犯すことを避けよう」とする心がなければ、罪は限りなく大きくなってしまおうでしょう。罪を犯してしまった時には、その罪が自分にとってどのくらいの痛みになるかを早めに自覚して、それから解放されようとするのが、罪への正しい対応ではないかと思います。

皆様、油断してはいけないことの中心に『罪』を置いてください。社会が教える「油断してはいけないこと」には油断してもよいと思います。それは、人間を信じないようにすることだからです。だまされてもよいのです。しかし、罪を犯すことには油断してはいけないと思います。

ありがとうございました。